



第8回トキ野生復帰検討会

環境省は2月19日、トキの今後の放鳥計画、次期目標の検討などを議論する「第8回トキ野生復帰検討会」を佐渡市で開催しました。

検討会では、今季は最大約50組のペアが野生下で繁殖に入る見通しであることが発表されました。またそのペアについて、万が一「きょうだいペア」となりヒナが生まれたとしても、収容は行わない方針であると決めました。今後、天敵であるカラス対策として、ポウネット(網)を使って捕獲実験も検討するとのこと。

2020年までに、野生下でのトキ生息は300羽を目標としており、27年中にも昨年同羽数の37羽の放鳥を予定しています。



**2月18日現在: トキ飼育
個体数 201羽。**
**2月13日現在: 野生下の
個体数 138羽。**

朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム

2月22日に、トキが生息できる佐渡の自然環境と生物の多様性からみえてくる人との関係について、農業関連の専門家や農家と学校関係者などが参加し、「朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム」が開催されました。

東京大学大学院の宮下直教授が「減る生きもの、増える生きもの」と題して、生物多様性をテーマに講演しました。宮下教授は「トキが生息できる環境は、膨大な生き物が必要で、森・水田・河などの生態系のネットワークを整備していくことが大切」と話されました。

また、パネルディスカッションも行われ、パネリストからは「子供の農業体験が不足している。農家からの話をきくことで、もっと郷土愛を育ててほしい」との声が出されました。

学校関係者からは、佐渡の豊かな自然を守るには、一層の環境教育が必要との意見も出されました。



3/1に2ヶ所の新しい施設の完成イベントがありました。



佐渡インフォメーションセンター
あいほーと佐渡



優秀賞を受賞
JA佐渡が全国農協中央会主催の「平成26年度地域営農ビジョン大賞」支援部門の優秀賞を受賞しました。



JA佐渡 HP やフェイスブック・ツイッター・g+ でも佐渡の情報が見られます

編集人: 佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 渡部・買(まい)
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp
発行日: 平成27年3月